

中国の” 一带一路” 戦略と JF-17 戦闘機の中央アジア輸出

漢和防務評論 20151030 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

連日パリのテロ事件が報道されていますが、日本も他山の石としなければならぬと痛感する次第です。

オーム真理教の教訓はまだ生きていますでしょうか？最近のメディアの論調を見ると、世代交代が感じられ、教訓の再点検が必要と思います。

漢和防務評論誌に、6月に開催されたパリエアショーでの中国関連記事がありましたので紹介します。

中国は” 一带一路” 戦略を背景に中央アジア方面への戦闘機輸出を計画しています。これらの国は” 上海協力機構” の構成国ですが、いずれも経済発展から取り残された国が多いので、中国はパキスタンと聯合し、代金支払いは物々交換方式、或いは中国からの借款方式を採用すると見られます。中央アジアの貧しいイスラム国家との協力は、中国の国際テロ対策の一環と見ることもできます。

KDR 平可夫パリ特電：

KDR が中国製武器を使用する全てのアジア国家に対する市場分析を行った結果、中国の **JF-17** 戦闘機の輸出努力が中央アジアに向けられていることが分かった。最近、中国及びパキスタンが、大々的に軍事協力関係を強化したのは、トルクメニスタン、ウズベキスタン及びキルギスタン等の国家である。

パリエアショー中国航空工業集団の展示ブースにおいて中国記者の取材を受けた際、同集団の責任者は、中国製航空機の輸出に関連付けて” 一带一路” の言葉を 5 回以上使用した。同責任者は：現在、中国の各領域の企業者は、” 一带一路” 戦略と中国製品輸出を結び付けて考えている、と述べた。彼は、” 一带一路” 戦略が中国航空産業の輸出にもたらす重要性を特に強調した。

すでに **KDR** は、中国が現在” 一帶” (シルクロード) 地域に高度軍事技術を積極的に売り込もうとしている、と何度も報道した。ウズベキスタンやカザフスタンには、**YL-1** 型無人機をすでに輸出した。トルクメニスタンには **HQ-9** 型長距離地对空ミサイルを輸出した。ロシア及び中国が東南アジア諸国に対して武器を輸出する際、報道に相当閉鎖的な国は秘密保全意識が高いミャンマーだけである。その他の国家は、例えばバングラディシュ、アフガン、パキスタン及びスリランカ等の国家は、大型軍事装備の輸入についての報道は相当開放的で、通常積極的に広報している。

西アジア、中東は、すべて欧米の戦闘機市場であり、近い将来、これらの国に対する **JF-17** の輸出は不可能であろう。ドバイエアショーにおいても、湾岸諸国の空軍

司令が JF-17 のブースに立ち寄ったり、質問したりする場面は見られなかった。しかも湾岸 6 ヶ国の次期戦闘機はすでに公表されている。

しかし近年来、パキスタンと中国は、トルクメニスタン及びウズベキスタンとの軍事協力を同時に強化している。旧ソ連圏の中央アジア国家の中で、カザフスタンは JF-17 を購入することはできない。なぜなら、カザフスタンの経済発展は、ロシアの軍事協力と密接な関係にあり、SU-30SM を受領したばかりであるからだ。ソ連解体後、トルクメニスタン及びウズベキスタンは、新型戦闘機を導入していない。ウズベキスタンやタジキスタンも状況は基本的に同じである。タジキスタンの経済発展は最も遅れている。

パキスタンは、5 年前からトルクメニスタンとの経済連携強化を開始した。双方は、アフガン経由の天然ガスパイプラインを建設中である。中国は、2007 年から、トルクメニスタンへの軍服、軍事借款、客車等の提供を開始した。ここで説明すると、トルクメニスタンは米ドルで JF-17 を購入することはできない。なぜなら、同国の軍事予算は、2014 年で約 2 億ドルしかないからだ。中央アジア国家の軍事予算の状況は、基本的に同じである。

パキスタンの総理及び軍の首脳は、2015 年 5 月 20 日、トルクメニスタンとキルギスタンを訪問した。重点はエネルギー協力である。したがってキルギスタンは、パキスタン JF-17 の売り込み先になっている。キルギスタン国防部長 KHAWAJA ASIF は、パキスタンの同レベルの首脳と会談を行った。

ここで注意すべきことは、上述国家はすべて“上海協力機構”（中国名：上海合作組織）の構成国であることだ。今後は、“一带一路”戦略に従って、パキスタン及び中国は、同機構の構成国に対する武器販路を拡大する可能性がある。

パキスタンは、如何なる方式でトルクメニスタンに対して天然ガス輸入代金を支払うのであろうか？ KDR の最大の関心事である。中国からトルクメニスタンに輸出された若干の武器を見ると、エネルギーとの物物交換か、或いは借款方式になると思われる。

したがって、パキスタン・中国聯合が“物物交換”方式か、或いは中国が借款を提供する方式を採れば、中央アジアの“上海協力機構”5 ヶ国への JF-17 売り込みは資金面で問題ないと思われる。パキスタンも同様に天然ガス等のエネルギーを求めている。中パ双方が獲得した天然資源を 50%づつ分けることも出来るし、中国がパキスタンに米ドルを支払う方式で協定を結ぶこともできる。

中央アジアのイスラム国家に売り込むのは中パ共同開発の武器であり、これらの武器を売り込むことは全く問題ない。さらに全て上海協力機構の構成国である。このほか全てイスラム国家であることから、パキスタンが訓練を提供するのが有利である。

以上